「全国に誇れる登米」発信

市内の歴史や逸話を題材に、市民が創り上げる登米市民劇場「夢フェスタ水の里」（登米市、登米市教育委員会、（公財）登米文化振興財団主催、夢フェスタ水の里実行委員会主管）。20回目を迎えた夢舞台は３月３、４の両日、登米祝祭劇場で開かれ、詰めかけた大勢の観客を魅了した。

夢フェスタ水の里
耕野を駆けた旋風～南方 夜明けの丈夫群像～

形のない宝を創り続ける

市内の文化、歴史、人物などに光を当て、市民が手づくりする舞台公演。夢フェスタ水の里は、本市の隠れた良さを広く紹介する、地域おこし事業だ。市民が文化活動に参加する機会を提供し、本市ならではの芸術文化の発信を意図としている。

市内の文化・歴史・人物が題材なので、脚本はオリジナル。演出にもプロの手は入らない。脚本だけではなく、役者、舞台スタッフ、運営や広報など、公演に関わる全てを、市民ボランティアが担ってきた。

しかし今回、演出にプロが加わった。登米文化振興財団で、夢フェスタを担当する坂東美葉さんは「20年間で、キャストやスタッフもレベルアップ。『より良いものを皆さんに届けたい』という意識が高まった」とその理由を語る。

プロに演出を任せた分、せりふや時代背景の勉強に時間を回せた。主役を務めた嶽内慶之さんは「初めての演技だったが、演出家からの指導があり、役のイメージを作りやすかった」。公演終了後、観客からの拍手や声援は例年にも増して多かった。

夢フェスタは、先人たちの取り組みを通して、登米市が「全国に誇れる地域」であることを知ってもらうことを目的としている。20年間、このスタンスは変わっていない。これからも地域と財団が一つになり、登米市という「形のない宝物」を発信し続ける。

あらすじ

登米市南方町は江戸期には南方村と呼ばれ、仙台藩伊達家御一家の一つ、佐沼亘理家の領地の一部だった。だが、村内には低湿地が広がり、雨が降る度に田んぼが水浸しになった。そこに押し寄せた明治維新の荒波。村人たちは、社会構造の激変と不作との「二重苦」に立ち向かわざるを得なかった。

その先頭に立ったのが、初代村長を務めた好漢、嶽内恭諄。彼に続いたのが、佐藤成幸、千葉正太郎、白鳥仲治ら歴代村長や初代佐沼町長の亘理隆胤らだった。

彼らは地域のリーダーとして、耕地整理や排水機場を整備。貧困に立ち向かい、逆風を順風に変え、一大米の生産地、農業立町・南方をつくりあげていった・・・。

関係者に聴く　*Official's Voice*

Takeuchi Keisi

「嶽内恭諄」を演じた
嶽内 慶之 さん（34）
興福寺法嗣
先祖を演じきれて安堵

財団職員から「嶽内恭諄を演じてほしい」と打診されたときは、正直戸惑いました。しかし、住職の勧めもあり、引き受けることに。稽古当初は、身振りなどの所作ができずに苦労しました。演出家から「ここは怒るところだから、感情をあらわにして」など、具体的な指示があったのでうまく修正できました。本番は不思議と緊張しませんでしたが、終わった後に先祖を演じきれてよかったと安堵しましたね。

Bandou Miyou

プロの演出で総合芸術
坂東 美葉 さん（29）
登米文化振興財団職員
公演事務を下支え

参加者たちからは前々から「プロの指導を受けたい」という声がありました。そこで、20回目の公演を記念してドリームキッズの演出をしている渡部三妙子さんに依頼。渡部さんは、役のイメージ作りを大切にし、一人２から４役をこなしてもらい、37人のキャストを約 60人に見せるなど、私たちでは考え付かない演出をして下さいました。今後も地域の題材をコーディネートし、登米市をアピールしていきたいですね。

❶貧しさに立ち向かった頃を回想しながら、いつまでも南方に豊かな実りが訪れることを願う嶽内恭諄たち❷水田の区画整理に納得がいかない農民たち。村人たちのエゴがぶつかり合う❸豊かな表情で、迫真の演技を見せる子役たち。年齢性別を問わず、みんなで創り上げるのが夢フェスタ❹舞台は、裏方も一緒に創っている。プロ顔負けのメークで演者を引き立たせる❺劇中、郷土芸能が舞台を彩る。伝統文化南方子ども日本舞踊教室の生徒たちが、舞踊を披露する❻台風の状況が気になり、見回りに言った農民。川で流されそうになったが、無事だった父に娘が抱きつく❼佐沼郷の一揆勢が大嶽山興福寺に結集。恭諄は「一揆ではなにも解決しない」と、必死に説得する❽男衆の活躍は、内助の功があってのこと。南方村を豊穣の里に変えた陰には、女性たちの支えがあった

観客に聴く　*Audience's Voice*

Onodera Hiroyuki/Toua

小野寺浩行さん（35）・**翔葵**くん（８）
迫町上舟丁

息子が出演したこともあり、初めて鑑賞しました。隣町にこのような歴史があったとは知りませんでした。多くの情報があふれる今の時代、大切な歴史を忘れないためにも、若い人たちに見てもらいたいですね。

岩淵貞子さん（70）
東和町米川２区

夢フェスタは、ほぼ毎年見に来ています。キャストとして参加したこともあります。議論と知恵で古里を変えるため、地域のリーダーらが要望書をまとめました。登米市の誇りですよね。今後も期待しています。

Iwabuchi Teiko